

トマトで地域に活気を与え、より良い産地を目指す！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



株式会社 細谷農 PROJECT

(大仙市清水)

代表取締役 細谷 亮太(りょうた)

経営概況

経営面積 | 50a(ハウス 18 棟)

作物 | 夏秋大玉トマト、葉物野菜(冬期間限定)

構 成 員 | 役員1名、社員2名、臨時雇用6名

北海道の大学を卒業後、県外で就職し営業職を経験。平成 27 年、30 歳の節目に帰郷し、指導農業士でもある父親の元でトマトや水稻等の栽培技術を学びました。それまで、農業経験は全くなく、農業知識ゼロからのスタートで、当時は農業への興味も薄かったものの、今はやり甲斐を感じています。

▶ きっかけ

漠然と何らかの経営者になりたいと思っていたものの、手段を見つけられずにいました。帰郷を機に父親の元で農業経験を積むうちに、営農意欲が湧いてきて、「個人事業主細谷農園 PROJECT」を創設し、父からパイプハウス2棟を借用し、トマトの営農をスタートしました。



●収穫前の大玉トマト

▶ 取組

夏秋トマトの栽培技術を親元で習得すると同時に、秋田県主催の「次世代農業経営者ビジネス塾」を受講しました。

また、将来に向けたビジネスプラン作成など経営管理手法を学び、農業は究極の成果主義だと気づきました。

将来の規模拡大化を見据え、雇用の確保、資材購入や流通面での信用度向上のため、平成 30 年株式会社設立に至りました。

現在は、社員2名のほか臨時雇用6名で、ハウス 18 棟の作業を切り盛りしています。「トマトは今、水分、栄養、それ以外の何を欲しているのか。」と社員にはトマトの観察を徹底するよう指導しています。

令和6年7月の大雨で、排水路のオーバーフローにより、ハウス内が浸水被害に遭い、通常であれば収穫を断念してもおかしくない状況で、1ヵ月以上かけてリカバリーし、どうにか 10 月の最終出荷にこぎつけました。



資材ハウス前にて

令和3年度に地域のリーダーとしての活躍が認められ、将来の農林水産業を担うことが期待される若手を表彰する「大仙市農業元気賞」を受賞し、また、令和6年度に第 147 回秋田県種苗交換会トマトの部にて秋田県知事賞を受賞しました。



養液土耕栽培の点滴灌水システム

▶これから

社員のうち、令和6年度に1名が独立就農し、来年度も1名が独立を予定しています。これからも、地域雇用を生み出すため、研修生を社員として受け入れ、トマトのプロを育成し、トマト栽培で地域に活気を与え、より良い産地を目指したいと考えています。



ハウス内の様子

(●印写真:細谷農 PROJECT 提供)

